

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 24 年 9 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202684		
法人名	医療法人ピーアイエー		
事業所名	グループホームつばい		
所在地	広島市佐伯区坪井三丁目818番地の1 (電話) 082-923-8387		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202684-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202684-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年9月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

瀬戸内海を見渡せる高台にある当ホームは「幸齢社会を創ります」の理念のもと入居者の皆さまに、安心してゆったりとした生活を送っていただきながら、おひとりお一人の「今」を満足していただけるよう支援しています。そして、四季折々の行事や毎日の散歩、料理作りや後片付けなどを通して自分らしさを発揮し、得意なことが生きがいにつながるよう取り組んでいます。母体のナカムラ病院に隣接しており、日ごろの健康チェックはもちろん急を要する医療にも迅速に対応します。

グループホームつばいでは、法人の「理念」と「行動指針」が記載されているハンドブックを職員が常時携帯し、日々の朝礼で理念を共有し、又、ホーム独自の目標を作成し、評価をし目標が達成されるように努力している。ホームでは「ゆっくりとおだやかに過ごして頂く」が大事と考え、家庭的な雰囲気の中で過ごしていただくように全職員で取り組んでいる。季節に応じた食事を作り、盛り付けにも気を配り食事を楽しんで頂く様に配慮している。また食事の後片付けや掃除など入居者の出来る事を職員と一緒にいき、いつまでも得意なことができるように支援している。母体の医療と連携し、入居者の日々の健康管理や緊急事態にも迅速に対応できる体制が出来ている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念に基づき職員全員で話し合い、ホームの目標を設定しケアに取り組んでいる。 グループ(医療法人)の行動指針を定めたハンドブックを全員が持ち、毎朝の申し送りで読み合わせを行いケアサービスの向上に努めている。	法人の理念と行動指針を定めた職員ハンドブックを職員全員が携帯し、毎朝の申し送りで唱和し、確認・共有している。ホームの目標は半年ごとに設定し、職員全員で評価・見直しをしている。また、職員の個人目標も立てて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年恒例のご近所からの招待や、母体施設のギャラリーやホールでの催しなどで地域の皆さんと交流している。	ホーム単独でのイベント開催はないが、法人が開催するイベントに地域住民やホームの入居者も参加し、交流している。その際、会話が弾むようになり、馴染みの関係が出来ている。町内会等地域のイベントについての情報はあがるが、入居者の参加が難しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コミュニケーション誌の配布や、法人グループで協力体制を作っている。 ホーム職員が認知症アドバイザーとして活動を始めたばかり。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常のサービス内容を細かく報告し、意見を頂くことで自分たちも気づくことが多々あり発想の転換ができる。	定期的に2ヶ月に1回、地域住民代表や地域のGHの管理者等が参加し、ホームの現状や地域行事等の報告や話し合いを行っている。地域のGHとは、それぞれの運営推進会議に出席し交流し、外出先や取組み内容などサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通して地域包括支援センターと情報交換したり、相談している。	認知症アドバイザーを取得している職員が、廿日市地区の認知症サポーター研修講師として参加協力することになっている。地域包括支援センターからの相談に応じたり、地域住民からの相談事例を地域包括支援センターへ仲介している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人の「行動制限最小化委員会」に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中は玄関を施錠せず、開けると音楽が聞こえるようにして安全面への配慮をしている。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」の重要性について、研修を重ね職員は理解している。”スピーチロック”という言葉による行動の制限について、取り組んでおり、“だめよ”などの言葉をを使わないように努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>本人のモラル、業務や勤務体制に無理はないか。不適切な言動を見過ごすことのないよう、ケアについての共通認識を図っている。</p> <p>ハンドブックなどを通して共通認識を高められるよう取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用中の方もあり、制度の理解に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族、本人に見学していただき、管理者、相談員が説明し理解を得たうえで同意をいただきます。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の面会時要望等の声かけをしている。ご意見箱の設置や職員に直接言いにくい場合は、母体施設の相談員や主治医への相談も可能になっている。</p>	<p>家族会を年に1回開催し、食事をしながら意見を聞いているが、活発な意見交換はない。しかし、家族の面会時に意見や要望を聞く事が多く、出された要望については記録をし、全職員で共有し、サービス向上に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日ごろから意見を聞いたり、ミーティングで話し合っている。	定期的に行うミーティングで、職員の意見や提案を聞いている。日常業務の改善・見直しの中で、職員から、食事の手間を省く為に外注への切り替えの提案が有り、試食をしたりメリットやデメリット等職員間で検討した結果、今までどおり職員が交代で調理する事になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の就業規則と職能資格等級制度人事考課規定あり。 職務能力を人事考課により評価し、各自が向上心を持って働くことができる環境になっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で年間研修計画をたて、人事考課で段階に応じた育成研修を行っている。研修内容の要望や、資格取得に前向きに取り組めるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	お互いの運営推進会議に参加し情報交換している。同業者の見学等も受け入れている。 今後、事業者交流会への参加の機会を増やしたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談や見学時に話を聞かせていただき、ご本人の気持ちや情報を職員全員が共有できるようにしている。 「私の暮らし方シート」で情報収集。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>要望や不安などを聞きながら、ホームの方針も理解していただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>法人内の相談員と一緒に対応し必要なサービス情報を提供している。入居検討委員会で、現在必要としているサービスを確認する。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒に過ごしながらか信頼関係を築き、お互いの感謝の気持ちを大切にしている。研修により、介護される立場への理解を得ることができるようになった。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ケアプランに家族と一緒にの外出を取り入れたり、ご家族は希望に合わせた支援をさせていただきます。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人からの手紙や、昔なじみの面会にとまどうことのないよう支援している。</p>	<p>届いた手紙の代読や電話をかける支援をしている。墓参りや馴染みの場へ行きたい等の入居者の要望を聴いて、それを家族に伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者同士が部屋を訪問したり、会話がスムーズにできるよう支援している。気の合わない利用者のトラブル防止にも配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退居後も相談員が引き続き支援し、経過報告が継続されている。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>行動や表情、日ごろの言葉から気持ちを汲み取り職員が情報を共有し本人の思いに沿えるよう支援している。</p>	<p>日常会話から、本人が生き生きとする内容や本人の昔の生活等についての聞き取り内容を職員が共有し、本人がしたいことを実現できるように支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご家族からの情報、親戚や友人の面会時にお話を伺うなどして把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>その方の表情が一番輝く時は何か、嫌いなことは何か、一人一人の現状を記録し職員全員が情報を共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	本人の気持ち、家族(面会時や電話時)の意見や要望をケアプランに反映させている。	ケアプランの見直しの際には、担当者がモニタリングを行い、職員で話し合い確認している。カンファレンスに出席できない職員には意見を書いてもらい、全職員の意見を考慮し話し合いを行い、ケアプランを検討している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	介護記録の記入、日々の申し送り、連絡帳で情報を共有し毎日のケアに生かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	法人内の機能を生かした対応、支援を行っている。(栄養士、薬剤師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士等の支援あり) 家族の希望があれば宿泊も受け入れている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	行事などのボランティアをお願いしている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	本人やご家族の希望を聞き対応している。かかりつけ医への相談や往診も可能。	月一回協力医に受診している。入居者の健康状態については、担当看護師が把握している。また、緊急時には看護師に相談し対応している。本人や家族の希望する、今までのかかりつけ医の受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	法人内の病院看護師にいつでも相談でき、アドバイスや支援をしてもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	法人内の病院と連携している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に重度化した場合の対応や方針を説明し同意を得ている。その後は状態に応じて話し合う。	終末期の対応については、法人グループの医療機関の協力を得て支援するようにしている。重度化した場合は、その都度、家族・医師と相談し、適切な対応するように検討している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	救命講習に参加。夜間の急変を軽減するために、日中の観察を細やかにを行うことを心がけている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	法人内で支援体制ができています。	避難訓練は年2回行い、そのうち1回は運営推進会議の中で行い、出席者も一緒に参加している。災害の際には、ボタンを押せば消防署本部への連絡や関連施設の守衛が駆けつける体制が出来ている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	申し送りや日々の生活の中から気づきを話し合い、毎日のケアにつなげている。	ホームでは、子供に話しかけるような言葉遣いをしない、大きな声での排泄誘導をしない等、プライバシーに配慮した対応を心がけている。居室に入ったり、本人の私物を整理する際には、本人・家族の了承を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の言葉が先走ることのないよう、ひとり一人に合わせたコミュニケーションを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の気分の変化により臨機応変に対応している。 職員のペースにならないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容院の希望や、その時々に着たい洋服など希望に合わせた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の料理や食事、後片付けを一緒にしている。	ホームとしては、「食事を楽しんでもらう」事を重要と考え、職員全員が交代で入居者の好みを反映した献立作りや調理を行っている。また、後片付けを入居者と一緒にし、その際、一人ひとりの持っている力を活かす様に工夫し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態を把握し対応している。量や形状などもひとり一人に合わせて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>見守りや手伝いなど各々に合わせた支援をしている。定期的な歯科受診と必要に応じて歯科衛生士の助言や指導をうけている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握し，一人ひとりに応じた支援を行っている。</p>	<p>入居者一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し，出来るだけトイレに行って排泄してもらう様にしている。排泄を失敗しても，本人が恥ずかしくない様に配慮し対応している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食材の工夫や散歩。本人の希望も考慮しながら，主治医と相談し便秘薬使用。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調や希望に合わせて行っている。</p>	<p>一人ひとりの希望を聞き体調に合わせて入浴をしている。ゆっくり話をしながら「会話を楽しむ入浴」支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>安静時間を作ったり、個々の状態に応じた支援を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の内服薬説明書を用意し、変更や追加等全員が把握し確認できるよう記録している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>お地藏様参り、食事の片付け、掃除など得意なことを張り切ってやっていただきます。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や買い物など希望に添って支援している。</p>	<p>日常的に、近隣にある法人の病院売店に職員が付き添い、買い物を楽しんでいる。また、近所にある「長寿地尊」を参るなど一人ひとりの希望に沿って、外出を支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自己管理している方は、買い物など楽しまれている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	電話や手紙の代読などの支援をしている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	冷やしすぎや温めすぎがないよう温度調節し、気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。	イベントの写真等を飾り、会話の話題が広がっている。入居者と一緒に掃除をし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングや食堂で皆さん思い思いに過ごしている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	皆さんそれぞれお好きなものを持ち込み暮らしている。	馴染みのものや本人の手作り作品を飾っている。本人が居室の掃除をしたり、職員と一緒に掃除をしたり、本人の自立支援と居心地よく過ごせる様に配慮している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	居心地よく過ごしていただけるよう、戸惑ったり混乱のないよう配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつばい

作成日 平成 24 年 10 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職員同士の会話が大声になったり、親しみを込めニックネームで呼ぶなどの行動が見られる。	プライバシーに配慮した対応をする。	・大きな声で排泄誘導をしない。 ・私たちはすべての人を必ず名前でお呼びします。	1年間
2	49	全体的に外出や散歩の機会が減っている。	外出の機会を増やす。	外食などを取り入れて季節を感じていただけるような外出を計画し実施する。 ・個々の状態に合わせた散歩の声かけをし実施する。	1年案
3	48	利用者様の余暇活動(レクリエーション等)がマンネリ化している。	来年の作品展への出品を目標に共同作品を作成する。	塗り絵や手作業など個々のできることを支援し、利用者同士のコミュニケーションを促す。	1年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。